

令和5年2月1日（毎月1回1日）発行 昭和43年1月10日第3種郵便物認可

MICHISHIRUBE

# みちしるべ

No.891



2023

2

February



## Contents

電気と神の存在／菅原 真.....	3
幸せはどこに？／新港 羊.....	4
愛されること／森下 誠.....	6
この意味教えて（カタカナ篇） No.14 パラダイス／広沢 規.....	8
私たちと聖書 No.79 人のDNAの情報量と聖書／峰本義明.....	10
はじめの一步／坂本健一.....	12



☆当月号および過去1年分のみちしるべを、電子書籍版にてご覧頂けます。 <https://e-michishirube.com>

# 電気が神の存在

菅原 真

以前、会社の同僚と電気の話をした時のことです。「電気が電線の流れで働く仕組みは、水がホースを流れて蛇口から出ることをイメージすると良い」と、一般的によく使われる事例で私が説明したところ、「水は目に見えるけど、電気は目に見えないからわからない」と言われてしまいました。

しかし電気は、目に見えないからといってその存在は否定されません。電気があることは生活体験をとおして明らかです。スイッチを入れると明かりがつき、暖房をつけると部屋が暖かくなります。そして情報ツールをとおして、生活に必要な情報を得ることができます。

その電気を私たちは意識することなく使ってきており、現在のところ、普通に生活することができています。しかし電気は有限で、効率よく貯めることが困難です。そのことを意識して使わなければ、最

悪の場合、一瞬にして大規模な停電が発生し、人のいのちにも関わる甚大な影響を社会全体に及ぼします。また電気機器を正しい知識で扱わないと、感電したり火災を起こしたりして、最悪の場合、死に至ることもあります。従って私たちが安心して暮らしていく上では、電気を扱うことについて、無知であってもよいということにはなりません。

そして、その電気のこと以上に、私たちが生きていく上で知らなければならぬことがあります。それは、神の存在と、その神によって私たちは造られ、生かされるということです。神は目に見えませんが、電気と同様、それは存在しないことを意味しません。そしてその目に見えない神について、世界最大のベストセラーである聖書が、証しています。その聖書は、その神がどのような方であり、また私たちのことをいかに愛しておられるか、ということを私たちに伝えようとしているのです。

ぜひ、神のことばである聖書をお読みになって、あなたを愛し、あなたを生かしておられる神について、お知りになりますように。

# 幸せはどーこ？

新港 羊



「山のあなた」

山のあなたの空遠く「幸」住むと人のいふ。

噫、われひとと尋めゆきて、

涙さしぐみ、かへりきぬ。

山のあなたになほ遠く「幸」住むと人のいふ。

ドイツ新ロマン派の詩人・作家である、カール・ブッセ（1872～1918年）による作品です。

日本では、上田敏の訳詩集「海潮音」に収録されています。文語調に訳してあり、小生、若い頃に、この詩を知り口ずさみました。

この詩には「幸」が二度繰り返されています。魅力的なことばです。誰しも、幸いな満足な状態を求めるはずです。しかし「幸」に到達できない空しい、切ない詩として読むのです。

私たちは一見、十分に満たされた便利な社会生活を享受しているのですが、何かが足りないと感じ、心を満たすべきものを求めていきます。しかし、なかなか見つけることができず、がっかりさせられることがあります。それにもかかわらず、別の何か良いことがあると聞くと、新たな期待を寄せてしまふ。私たちの人生はそんなことの繰り返しではないでしょうか。

旧約聖書には次のような一節があります。

「川はみな海に流れ込むが、海は満ちることがない。川は流れ込む所に、また流れる。」

（伝道者の書1章7節）

これはソロモン（イスラエル王国の三番目の王・BC973年ごろの人）が記したものです。大川の水は海へ流れ込みますが、基本的に海の水位は変わらず、流れ込んだ水は、水蒸気となり天へ上り、やがて雨雲になり大地に雨を降らせ、川となり海に流れ込む訳です。

それと同様に、人の限らない欲望も海が満ちることがないように、満たされたい、満足することができない事を教えているように思えるのです。

同じ伝道者の書には、このようにも記されています。

「金銭を愛する者は金銭に満足しない。富を愛する者は収益に満足しない。」（5章10節）

たしかに金銭は生活の必要を満たしてはくれますが、それだけでは人が本当に幸せになれるものではありません。それは富を得た多くの人が実感しているはずで

では、本当の幸せ・心の満足はどうしたら手に入ることができるのでしょうか。聖書はこのように語ります。

「幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。」（詩篇32篇1節）

本当に幸せな人は、私たちの心に潜む「罪」の問題を解決した人なのです。なぜなら私たちの心の中にある罪は、私たちの幸せをことごとく奪っていくものだからです。そしてその罪は私たちをやがて永遠の滅びへと導くものでもあるからです。

そんな私たちの罪を取り除くために、今から2千年前に、イエス・キリストはこの世界においでになりました。この方を救い主と信じることを聖書は約束しています。

ですから聖書と出会い、このイエス・キリストを知ることが、本当の幸せを手に入れる第一歩なのです。幸せはあなたのすぐ近くまで来ているのです。



## 愛されること

森下 誠

私たちの社会は、多くの善意によって支えられています。震災などの災害があると、多くのボランティアの方たちの活躍によって、様々な援助がされています。それは、人の優しさや絆の深さを知らされて心温まることです。

私たちは、愛なしには、生きていきません。この世から疎外され、のけ者にされ、愛されないとしたら、生きていけないのです。誰か一人でも自分を愛している人がいて欲しいと思うのです。また、変わりなく愛していてくれることを望みます。

「人の望むものは、人の変わらぬ愛である。」

(箴言19章22節)

しかし、自分自身を顧みれば、その愛が変わりやすいものであることも事実です。他の人を変わりなく愛することは、難しいことでもあります。人間の愛は不完全だからです。

ところが聖書を読むと、決して変わることもない愛が存在するということが分かります。

それが神の愛です。神の愛は、永遠に変わることがありません。しかもその愛は、観念上のつかみどころのないものではなく、現実的な愛なのです。

それは今からおよそ2千年前、イエス・キリストの十字架という歴史的な事実を通して、私たちに表されました。次の聖書のことばは、そのことをもつともよく伝えているものです。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほかに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひ

とりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネの福音書3章16節)

ここに「世を愛された」とありますが、それは神の愛の広さを示しています。その愛はすべての人を対象としており、当然、私たち一人一人にもその愛は注がれているのです。神は世界のすべての人が救われること、―地獄に行くことを免れ、天国に行くようになることを願っておられるのです。

そして、「ひとり子をお与えになつた」ことは、その愛の深さを示しています。私たちは、だれも自分に罪がないとは言えません。聖書には、「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。」(エレミヤ書17章9節)と記されています。衝撃的なことばですが、人の本質を突いたことばでもあります。

ですから私たちは、本来、神に愛される資格のない者です。罪のさばきを受けて当然の者です。それにもかかわらず、神はそんな私たちを愛し続けて下さり、そのさばきから私たちを救うために、かけがえのない御子を犠牲にされたのです。

その神の愛によって、人生を変えられたパウロというクリスチャンは、このように語りました。

「いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになつた神の御子を信じる信仰によつていゝのです。」

(ガラテヤ人への手紙2章20節)

パウロはかつてクリスチャンを迫害していましたが、復活されたイエス・キリストと出会うことによつて大きく変えられました。人生の本当の意義を見出したのです。その後の彼の人生は、けつして平坦ではありませんでしたが、けつして揺るぐことがありませんでした。苦しみの中にあつても、神の愛ゆえに真の喜びと平安を持つて生きることができのです。

今、私たちも、その聖書を通して、その神の愛を知ることができるのです。聖書は、神からの手紙(ラブレター)です。聖書を実際にお読みになり、神の愛を見出されることを願います。



# この意味教えてーカタカナ篇ー

広沢 規のり

No.14

## ● パラダイス

パラダイスは一般に「楽園」と翻訳されます。小学館の現代国語例解辞典によると、「悩みや苦勞のない、楽しい世界のたとえ」と説明されています。

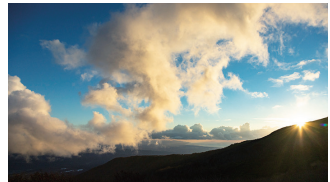
聖書によれば、パラダイスとは、「神が救われた者たちに用意されている義と平和と聖霊による喜びに満ちた所」という意味合いになります。新約聖書には、パラダイスという言葉が含まれている聖句が三か所あります。それらの箇所を紹介しながら、その意味をさらに考えてみます。

①「まことに、あなたに告げます。あなたはきよ

う、わたしとともにパラダイスにいます。」

(ルカの福音書23章43節)

イエス様が十字架にかかられた時、同時に十字架の刑に処せられた犯罪人が両隣にいました。そのうちの一人は罪を悔い改めて、イエス様を救い主と信じ受け入れました。この聖句は、その彼に約束されたイエス様のことばです。イエス様は、彼の罪も負われて身代わりの死を遂げてくださったのです。ですから、この犯罪人は、イエス様が言われたとおり、死の間際であっても救われて、確実にパラダイスに行くことができました。





この場合、パラダイスは、よみにある神様のなぐさめと平安に満ちた所です。そして、イスラエル人の父祖アブラハムを初め、これまで救われた旧約時代の聖徒たちがいる祝福に満ちた所です。ですから「アブラハムのふところ」（ルカの福音書16章22節）とも呼ばれます。やがてイエス様が再臨される時、彼らは朽ちないからだを受けて、この方が王の王として統治する、地上の神の国（千年王国）の住民となります。

②「私はこの人が、パラダイスに引き上げられて、人間には語ることを許されていない、口に出すことのできないことを聞いたことを知っています。」（コリント人への手紙第二・12章3、4節）  
この聖句で、「この人」とは、この書簡の書き手である使徒パウロのことです。彼は、現在イエス様がおられるパラダイスに引き上げられました。おそらく、激しい迫害を受けて、ほぼ死にかけたときの出来事かもしれませぬ。このパラダイスは「第三の天」（同12章2節）とも言われています。

パウロは生きている間に、特別にこのような体験を許されたようです。今日、クリスチャンは死を境に、霊はパラダイスに導かれます。そして、その肉体は墓に埋葬されて、ひとたび土に戻りますが、イエス様が再臨される際、朽ちない栄光のからだを受けることになります。

③「勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。」

（ヨハネの黙示録2章7節）

この聖句は、栄光のイエス様が、使徒ヨハネに啓示されたことばです。このパラダイスは、千年王国の後、創造主によって再び造られる「新しい天と新しい地」（同21章1節）のことです。そこでは、エデンの園を追放されて以来、人間が食べることができる許されなかった、いのちの木の実を食べることができるようです。（同22章2節）この新天地は、神様の永遠のご計画の完成形と言えるかもしれませぬ。どうか一刻も早くパラダイスに入る約束を獲得してください。

## No.79

### 人のDNAの情報量と聖書

峰本義明

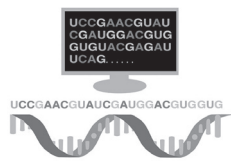
#### 1 スマートフォンの「GB」って・・・？

読者の皆さんはスマートフォン（スマホ）をお持ちでしょうか。スマートフォンの機能を表すのに「64GB」や「128GB」という記号を見かけます。これは、スマートフォンの中にどれだけの情報を入れられるかを示しています。「GB」は「ギガバイト」の略号で、「ギガ」とは「10億」を表す言葉です。では「バイト」とは何でしょうか？これはコンピュータが扱う情報の単位の1つで、簡単にいうと2バイトで1文字を表現できます。よって、1ギガバイト（＝10億バイト）は約5億文字

の情報量です。ちなみに新聞紙1ページの文字数はおよそ16000字ですので、1ギガバイトはおよそ31250ページの情報量になります。

ところで、人の細胞1つに入っているDNAの情報量は750MB（1メガバイト＝100万バイト）あるそうです。7億5千万バイトですね。2で割って3億7千5百万文字分です。そして、体重が60kgの人は細胞が約60億個あるので、人間1人が持っているデータ量といったら…。計算はできませんが、途方もない数字になります。

私たちが普段持ち歩いているスマートフォン1台の持つ情報量も大変なものです。そもそも私



たち一人一人は凄まじい情報量を内に持っているのです。

## 2 御使いより欠けがあるもの

地球上に生息している生物は1つ1つ素晴らしいものですが、その中で特別なのは人間です。聖書の記述を見ると、神様は人間を特別なものと扱っていることがわかります。以前にも同様なことを書いていますが、今一度確認しましょう。

「あなたは人を御使いより わずかに欠けがあるものとし これに栄光と誉れの冠を かぶらせてくださいました。」(詩篇8篇5節)

ここに人間の卓越性がよく表されています。神様は人を御使いよりも少し低いものとされました。しかしそれは他の生き物に比べれば十分に高い地位のものであり、神様からの「栄光と誉れ」を受けるにふさわしいものなのです。

## 3 人となられた神

ところで、詩篇8篇のみことばは次のように続

きます。

「あなたの御手のわざを人に治めさせ 万物を彼の足の下に置かれました。」(6節)

へブル人への手紙ではここを引用し、イエス様に当てはめて説明しています。

「ただ、御使いよりもわずかの間低くされた方、すなわちイエスのことは見えています。イエスは死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠を受けられました。その死は、神の恵みによつて、すべての人のために味わわれたものです。」

(へブル人への手紙2章9節)

つまり、イエス様は神の御子なのに、へりくだつて御使いよりも低い人間として生まれ、十字架による死の苦しみをお受けになつて、今は栄光と誉れを受けておられる、ということなのです。その死は、すべての人のために味わわれたのです。

あなたは神様によつて造られた、尊く栄光あるものです。それにふさわしく、イエス様による救いを受け入れ、真に栄光にふさわしい方とされますように。

# はじめの一步

坂本健一



「はじめの一步」と言うと、子どもの遊びの「だ

るまさんがころんだ」での最初の掛け声を思い出す方がおられるかもしれません。またそういうタイトルの有名なボクシング漫画もあります。

中国に「千里の道も一步から」ということわざがあるとおり、何かをする上で、最初の一步を踏み出すことはとても大切なことです。人類ではじめて月面を歩いた、アポロ11号のニール・アームストロング船長は、「これは一人の人間にとっては小さな一步だが、人類にとっては偉大な一步である。」という有名な言葉を残しており、この言葉もはじめの一步の重要性を語っている

と言えます。

ところで聖書の中にも、このはじめの一步を歩み出した人たちの話が出てきます。紀元前9世紀ごろのイスラエルでのことです。そのイスラエルに隣国のアラム（現在のシリア）が攻めてきて、都を包囲したことがありました。ちょうどその頃、飢きんも起こったため、物価は高騰し、あまりのひもじさに、母親が自分の子どもを煮て食べるといふ、非常にショッキングなことも起こるほどでした。（列王記第二・6章26〜29節）

しかし、神様が奇跡を起こして、アラムの陣営をその場所から追い払われました。その結果、食料をはじめとする多くの物品がそっくりそのまま取り残されることになり、イスラエルの民は、その苦境から救われることとなったのです。

ところが、それらのものを最初に発見し、食料にありつくことができたのは、王族のような特権階級の人々ではなく、当時、社会から隔離され、周囲からは汚れた存在とみなされていた、ツアラアト（らい病。いわゆるハンセン病）に冒された4名の人でした。

当初、彼らは町の門に座っていましたがいよいよ食料が無くなってきたとき、このように言いました。

「私たちはどうして死ぬまでここにすわっていなければならぬのだらうか。たとい、私たちが町にはいろいろと言っても、町はききんなので、私たちはそこで死ななければならぬ。ここに

すわっていても死んでしまふ。さあ今、アラムの陣営にはいり込もう。」

（列王記第二・7章3、4節）

そこでその4人は町を出て、アラムの陣営に入るとどうでしょう。たくさんの食料や衣服、さらには金や銀など高価な物がそのままの状態に残されているではありませんか。そのため彼らは全く労せずして、それらの物を手に入れることができたのです。

さて、この出来事は私たちに何を教えているのでしょうか。

「狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからはいつて行く者が多いのです。いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。」（マタイの福音書7章13、14節）

これはイエス・キリストがおつしやつたことばです。聖書は、人はみな罪のゆえに、滅び（地獄）に向かっていると教えています。アラム軍に包囲された町の人々のように、滅びを待つしかないような状態なのです。今のままでは非常に危険なのです。

しかし神様は、かつてアラム軍からイスラエルを救ったように、今の私たちを罪の滅びから救い出すために、およそ2千年前、御子イエス様をこの世に遣わし、この方を私たちの罪の身代わりとして十字架にかけてくださいました。

このイエス様を救い主として信じ受け入ることで、どんな人でも天国に入ることができるようになります。イエス様は、狭い門、いのちに至る門なのです。その門をくぐるのが、天国へ入るための唯一の方法であり、信仰生活を送るための「はじめの一步」なのです。

ツアラアトにかかった4人は勇気を出して一歩踏み出し、アラムに向かったことで飢え死に

から救われたのです。もし危険を恐れて、他の人々と同じように町にとどまったままなら、そのまま餓死していただしよう。

同様に、私たちも滅びをただ待つより、周りの人々のことは気にせず、まず一歩を踏み出すことが大事なのです。その一歩は、人の目から見たら小さなことかもしれませんが、神様の目から見たら、非常に大きな一歩なのです。

人は、周りと同じことをしていると安心できるものです。でもその安心に何の根拠がありませんか。今のままの状態でとどまっていたらあなたに希望がありますか。救いがありますか。そうでないならば、今何をするかを考えるべきです。

さらに、この話には続きがあります。ツアラアトの4人は、最初は食料などを隠して、自分たちで独占しようとしたのですが、やがてこのように言いました。

「私たちのしていることは正しくない。きょうは、良い知らせの日なのに、私たちはためらっている。もし明け方まで待っていたら、私たちは罰を受けるだろう。さあ、行って、王の家に知らせよう。」(列王記第二・7章9節)

彼らはこのように、自分たちの受けた恵みを民と共に分かち合おうと考えたのです。同様にイエス様を信じて救われた者は、その恵みを自分のものだけにしようとするのではなく、多くの人に分け与えようと考えます。恵みを分かち合うこと、それが、クリスチャンが福音を伝えようとする最大の動機と云えるのです。そのようなクリスチャンの伝道や証を通して、皆さんの耳にも福音が届けられることになったわけです。

「良いことを伝える人々の足は、何とリッぽでしょう。」(ローマ人への手紙10章15節)

聖書はこのように、良い知らせ(福音)を伝えることがいかに幸いであるかと語ります。目の前にあるたくさんさんのものを独り占めしようとせず、他の人にそれらのことを伝えようと町に向かった4人の足は、一たとえツアラアトに冒されていても、リッぽなものでした。

イエス様の十字架による救いが完成してからおよそ2千年、多くのクリスチャンの足が、その良い知らせを伝えるために、滅びに向かっている人の所へと向かいました。そして今、この小冊子を通して、今、皆様に福音が届けられているのです。皆様が、天国へと向かう「はじめの一步」を踏み出す方とられますように。



### みちしるべ2月号 第891号

令和5年2月1日(毎月1回1日)発行

発行所 伝道出版社

〒183-0056 東京都府中市寿町 2-8-9

TEL 042-366-7760

FAX 042-366-7790

編集人 伝道出版社 編集部

<https://dendoshuppan.shop-pro.jp/>

印刷所 株式会社 共同印刷所

昭和43年1月10日第3種郵便物認可

令和5年2月1日(毎月1回1日)発行

みちしるべ2月号 第891号

伝道出版社  
〒183-0056 東京都府中市寿町2-8-9

Column 

## 「真理の探求」

昨年秋、高知県にある牧野植物園に行きました。この植物園は、高知県出身の植物学者である牧野富太郎の功績をたたえて造られた施設です。植物園は、もちろん素晴らしかったのですが、一番印象に残ったのは、展示されていた牧野氏の研究に対する心構えです。その中の一つを紹介します。

「神様は存在しないと思いません。学問の目標である真理の探求にとって、有神論を取ることは、自然の未だ分からないことを、神の偉大なる摂理であると見て済ますことにつながります。それは、真理への道をふさぐことです。自分の知識の無さを覆い隠す恥ずかしいことです。」

これは、牧野氏の研究に対する真摯な姿勢を表す言葉だと思います。しかし自然科学の分野は、「天地万物を造られた神がおられるのであれば、自然や宇宙には秩序があるはずだ」という信仰に基づいた、大勢の研究者たち（ガリレオ、ニュートンなど）の探求によって発展したという歴史があることも事実です。ですから研究を突き詰めていくと、逆に神の存在に気がつくのではないのでしょうか。

「神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められる」（ローマ人への手紙1章20節）  
（大野信二）

なお、くわしく聖書について知るために、下記の所へぜひおいでください。



定価1部50円＋税  
送料63円  
振替00140927336